

## 主な取り組み

### 公式HP



ポスター・ロゴマーク等のダウンロードや講習情報等発信の基地として公開。

<https://aed-zaidan.jp/>



### AED推進フォーラム

年1回、AEDに関する講演やディスカッションを行っています。



### EAP

(Emergency Action Plan)

学校やスポーツ中に心停止が発生したときに迅速に対応するために必要な準備をまとめたものです。



### AED N@VI

最新のAED設置情報を集める参加型のプロジェクトです。

みんなで作るAEDマップ



### AEDマークのJIS規格化への提言

誰にでも分かるようにAEDマークのJIS規格が定められました。



### 救命サポーター「team ASUKA」

日ごろからAEDに関わる情報を共有し、いざというときの救命行動につながることを支援するプロジェクトです。

アプリではAEDマップ「AED N@VI」を利用をしたり、救命処置について学ぶことができます。



iOS



Android



### AEDサスペンスドラマゲーム

サスペンスドラマ風のeラーニングで心肺蘇生とAEDについて楽しく学べるゲームです。



### AED講習会の実施

月2回無料のオンライン講習会を実施。HPよりお申し込みいただけます。対面・個別講習会もお気軽にお問い合わせください。



### 小学生向け副読本



### AED設置ガイドライン



### SNS

Facebook



減らせ突然死プロジェクト

Twitter



@aed\_project

Instagram



@aed\_japan

AEDとあなたの力で  
救える命があります



公益財団法人

日本AED財団

The AED Foundation of Japan



公益財団法人 日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL.03-3253-2111 FAX.03-3253-2119 E-mail.info@aed-zaidan.jp

<https://aed-zaidan.jp/>



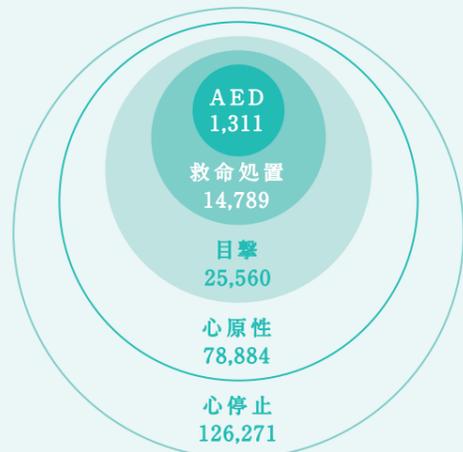
## 活動目標

AEDの普及、啓発、教育及び訓練に関する取り組みを進めることで、心臓突然死から1人でも多くの命を救える、安全で安心な社会を目指します。

心臓が原因で突然心停止になる人は  
年間およそ8万人\*  
AEDによる電気ショックを受けたのは5%\*

日本では毎年約8万人が病院の外で心臓が原因で突然心停止となり、その多くが亡くなっています。倒れる瞬間を目撃されたケースに限っても、心肺蘇生を受けたのは約半数。AEDによる電気ショックが行われたのはたった5%に過ぎません。

\*総務省消防庁:令和2年版救急・救助の現況



## 目標達成のための「3つのS」

### School

学校での突然死ゼロ

#### 活動

- 突然の心停止発生時への具体的な対応の提案
- 平時からの危機管理への意識啓発と実地訓練の推進
- 小学校からの救命教育導入の促進
- 実践校の取り組み紹介や学校関係者への情報発信

#### 実績

- 学校での突然死ゼロを目指した提言
- エマージェンシーアクションプラン

### Sports

スポーツ現場での突然死ゼロ

#### 活動

- 突然の心停止発生時への具体的な対応の提案
- 平時からの危機管理への意識啓発と実地訓練の推進
- スポーツイベントと連携した啓発イベントの実施
- スタジアムの観客に対する安全確保の推進

#### 実績

- 心臓突然死ゼロを目指す提言
- アスリートと連携した啓発活動

### Social Movements

街中でとっさの社会連携

#### 活動

- 突然の心停止発生時に周囲が即座に連携対応できる体制推進
- 心停止の現場にAEDをもって駆けつけるアプリの開発と基盤づくり
- 街中で応答し協力してくれる救助要員の確保
- 生活拠点へのAED配備拡充と位置情報の周知および管理の改善

#### 実績

- AED推進フォーラム
- AEDオンライン講習会
- 各種イベント

## 組織



名誉総裁  
高円宮妃殿下

AED  
大使の  
みなさん



歌手  
青木 まり子さん



元プロ女子マラソン選手  
有森 裕子さん



プロレスラー  
蝶野 正洋さん



元プロサッカー選手  
中村 憲剛さん



プロアスリート  
山本 篤さん



理事長  
三田村 秀雄  
国家公務員共済組合連合会  
立川病院 顧問・元 慶應義塾  
大学心臓病先進治療学教授

AEDをすぐ使えば、目の前で心停止で倒れた人の2人に1人は救える! それには学校・メディア・インターネットなどを活用した市民教育の展開がカギになります

## 沿革

- 2004年7月 ■ AED(自動体外式除細動装置)使用が一般市民にも「解禁」
- 2014年6月 ■ 任意団体「減らせ突然死プロジェクト」を発足
- 2016年7月 ■ 一般財団法人日本AED財団を設立
- 2017年4月 ■ 名誉総裁として高円宮妃殿下をお迎えする
- 2018年 ■ 毎年のSchoolフォーラム開催開始  
■ 学習指導要領改訂
- 2019年12月 ■ 公益財団法人の認可を受ける  
■ 救命教育教材の開発と提供開始
- 2020年 ■ エマージェンシーアクションプラン  
■ 東京五輪  
■ RED SEAT
- 2022年 ■ 救命サポータープロジェクト始動
- 2025年 ■ 大阪・関西万博  
■ 学習指導要領改訂

■ モデルエリアにスマホを活用したAED駆けつけシステムを拡大



■ オンライン講習会開始

みんなで作るAEDマップ



■ 全国の自治体でAEDマップ×駆けつけシステムを導入運用

School

Sports

Social Movements